

(1) 評価文書に基づく知見のとりまとめ

CAS	107131
物質名	アクリロニトリル
IARC Vol. (発行年)	71 (1999年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none">・ in vitro 試験系では、代謝活性化系存在下のエームス試験で遺伝子突然変異を誘発し、大腸菌及びげっ歯類を用いる試験で代謝活性化系の添加なしで遺伝子突然変異を誘発した。・ in vivo 試験系では、ほとんどの試験で陰性の結果であったが、ショウジョウバエを用いた試験系では陽性の結果であった。・ 職業的な暴露を受けた労働者において、本物質のヘモグロビン付加物を認めた。
実験動物に関する知見	評価：十分な証拠 概要：ラットの出生前後の吸入暴露実験で、中枢神経系のグリア細胞の腫瘍、乳房の悪性腫瘍、ジンバル腺がん、良性または悪性の肝細胞の腫瘍及び肝臓以外の血管肉腫の過剰発生を認めた。
ヒトに関する知見	評価：不十分な証拠 概要：比較的大規模なコホート調査が4調査あり、高濃度に暴露した集団で肺がんの過剰発生が示唆されたが、暴露量と肺がんの発生との間に確かな相関関係が見られなかった。
評価結果	上記のとおり、本物質は細菌を用いる試験をはじめとする複数の試験系で遺伝子傷害性が認められているため、より詳細な情報収集を行う必要があると考えられた。